

ポストコロナ時代の透析医療 — 看護の力が問われる時代がくる

下山 節子*

今年近代看護教育の母であり、世界の感染管理の礎を築いたと称されるナイチンゲール生誕 200 年に当たり、世界中で Nursing Now キャンペーンが展開されている。これは、看護職が人々の健康向上に貢献するために行動する、世界的なキャンペーンである。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が世界中に蔓延したこの機に、改めてナイチンゲールが培ってきた看護の力が求められている。ナイチンゲールは、清潔さや、清浄な空気を取り込む換気の重要性を説き、感染による死亡率を劇的に改善したが、そのためには、管理と教育がいかに重要かについて言及している。

現代にあっても、看護管理者の役割は、時代のニーズを読み、多職種と協働して感染管理などの医療安全の組織システムを構築し、人材確保して看護の質を保証し、継続教育できる学習する組織を創ることにある。しかしながら、透析医療の現場では、小規模施設が多くを占めており、組織体制や継続教育の充実をはかるには課題も多い。ポストコロナ時代の到来を踏まえ、透析現場の看護管理者が、何をすべきか、ナイチンゲールが問う「看護の力」をいかに発揮するか、さらなる自己研鑽が求められる。

今回の COVID-19 のような未知のウイルスは、三つの感染症¹⁾を引き起こすといわれている。つまり ① 疾病を引き起こす生物学的感染症、② 「不安や恐れ」を生じさせる心理学的感染症、③ 不安や恐怖が生み出す「嫌悪・差

* NPO 法人日本看護キャリア開発センター

別・偏見」が行動となって現れる社会学的感染症である。看護者が第三の感染症の影響をもっとも受けたのも事実であり、この三つの感染症は透析現場の看護管理者にとっても重要な課題となる。

日本看護系学会協議会は、COVID-19 に対して「医療ならびに地域ケアシステムの崩壊を防ぎ、人々の命と尊厳を守るために」²⁾を緊急提言した。また、日本透析看護認定看護師会は、COVID-19 の相談窓口を設けて活動を始めている。透析医療の現場にいる看護者として、そして看護組織としても社会へのアピールは今後必要となるであろう。透析患者の COVID-19 国内第 1 号は、筆者が住む福岡県で発生した。福岡県透析医会 金井英俊会長をリーダーに多職種と患者会が協働し、取り組みの成果を出した(福腎協ニュース 6 月 15 日版)³⁾。このような透析医療ならではの協働は、ポストコロナ時代にあっても大きな強みである。

今後、また新たな未知のウイルスが猛威を振るう可能性もある。いずれにしても透析医療や透析看護に携わる者として、看護の力を発揮し、「人々の命と尊厳を守るために」、三つの感染症防止に向けて、協働して取り組むことを期待したい。

文献・参考 URL (2020 年 7 月現在)

- 1) 日本赤十字社：新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対応する職員のためのサポートガイド
http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200330_006139.html
- 2) 日本看護系学会協議会：緊急提言
http://www.jana-office.com/news/pdf/jana_statement_20200531.pdf
- 3) 福岡県腎臓病患者連絡協議会：ふくじんきょう、2020 年 6 月 15 日発行, No.283